

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 皿 第4会場 (男女共同参画センター 1F 多目的ホール)

委員会企画パネルディスカッション6 (III-CPD6)**「いのちの授業」活動報告**

座長：内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

座長：山澤 弘州 (北海道大学大学院医学研究院 小児科)

[III-CPD6-1]

学校教諭と連携し、いのちを学ぶー小児循環器医の立場から

○内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

[III-CPD6-2]

小児循環器医と連携し、いのちを学ぶー教員の立場から

○齋藤 久美 (国立大学法人 筑波大学附属小学校)

[III-CPD6-3]

いのちの授業による教育と医療の連携

○種市 尋宙 (富山大学附属病院 高岡・地域小児保健医療学講座)

[III-CPD6-4]

「いのちの授業」-生老病死のウェルビーイング- ～教育現場から死生観の醸成を求めて～

○佐藤 毅 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)

[III-CPD6-5]

「いのちの授業」ー過去から現在までの取り組みと今後の展望ー

○土井 庄三郎¹, 田原 昌博², 中村 蓉子³, 山村 健一郎⁴, 齋藤 久美⁵, 佐々木 昭弘⁶, 佐藤 毅⁷, 種市 尋宙⁸, 山澤 弘州⁹, 内田 敬子¹⁰ (1.東京科学大学 医学部 小児科, 2.広島中央通りこどもクリニック, 3.土浦協同病院 小児科, 4.九州大学 医学部 小児科, 5.筑波大学附属小学校 養護教諭, 6.筑波大学附属小学校 校長, 7.東京学芸大学附属国際中等教育学校 保健体育科教諭, 8.富山大学 医学部 小児科, 9.北海道大学 医学部 小児科, 10.東京医科大学 医学部 細胞生理学分野)

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 血 第4会場 (男女共同参画センター 1F 多目的ホール)

委員会企画パネルディスカッション6 (III-CPD6)

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

座長：山澤 弘州 (北海道大学大学院医学研究院 小児科)

[III-CPD6-1] 学校教諭と連携し、いのちを学ぼう—小児循環器医の立場から

○内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

キーワード：学校、連携、いのちの授業

某小学校では、すでに数年前から小学6年生対象に海外渡航心臓移植をテーマにした研究授業が養護教諭を中心に研究・実施されてきた。演者は、PH Japan projectならびに学会と教育の連携委員会の活動をきっかけに、2022年度にはじめて本パッケージ型授業の1コマのゲストティーチャーとして参加し、その後毎年参加させていただいている。理科で「人の体のしくみと働き」「人の死の判断の条件」を複数コマにわたって深く学び、養護教諭による総合学習「Sちゃんとわたしたち：心臓病の少女『Sちゃん』」として、自分と同年の心臓病のSちゃんについて特に心臓病の詳細や闘病生活について事前学習がなされていた。

「『Sちゃんの闘病』～どうしてアメリカで移植手術を受けたのか～」というタイトルの授業において、養護教諭が公開されている情報をもとに渡航の様態や術前術後の内容を中止に授業を行い、途中で、「なぜ渡米しなければならなかったか」という問いに対して、演者が子ども達からの回答に対して一つ一つ深掘りしながら日本の移植医療の現状と問題点を説明した。また、多様な考えをより実感してもらうために、脳死となり臓器提供をしたドナーの家族の投書と臓器提供を反対する家族の投書の両者を紹介し、ディスカッションした。小学生に対してこれだけの深い学びを展開することが可能となったのは、「海外渡航心臓移植」や「脳死」の理解をもとに「いのちを考える」という一つの目標に向かって多教科が連携・協働したが理由に他ならない。小学6年生においても、養護教諭や理科教諭をはじめ学校教諭ともに作る丁寧な授業計画によって、「海外渡航心臓移植」や「脳死」といった専門性の高い内容を理解し、いのちを深く考える機会を提供する可能性を実感した。本講演では実践内容を具体的に紹介する。

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10 ~ 11:40 皿 第4会場 (男女共同参画センター 1F 多目的ホール)

委員会企画パネルディスカッション6 (III-CPD6)

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

座長：山澤 弘州 (北海道大学大学院医学研究院 小児科)

[III-CPD6-2] 小児循環器医と連携し、いのちを学ぶー教員の立場から

○齋藤 久美 (国立大学法人 筑波大学附属小学校)

キーワード：小学校、いのちの授業、教育と医療の連携

【はじめに】子供のいじめや自殺、虐待などいのちに関わる問題が深刻さを増す中、小学生を対象に、小児循環器医等と連携した「いのちの授業」に取り組んでいる。小児の脳死下心臓器移植の問題をテーマに設定し、学級活動、総合的な学習の時間、理科、道徳の多教科が連携し、小児循環器医にゲストティーチャーとして参加して頂くパッケージ型の授業を実践している。【方法】日本の小児の心臓移植のドナーは欧米に比べて非常に少なく、その背景には脳死についての考えや臓器提供の意思表示のルールの違いなどがあると考えられる。そこで「日本は高い医療技術がありながら、身体的危険を冒して海外渡航し、心臓移植手術を受けざるをえない子が多い」という現状を授業のテーマとした。ねらいは臓器提供の意思決定を促すことではなく、現時点で答えが見つからない問題に向き合い、自分なりの考えを形成するなど、自他のいのちを尊重し、考え続ける態度を育てることである。レシピエントの少女が海外渡航移植を受けた理由を予想させ、ゲストティーチャーの医師から、児童の予想や日本と諸外国の移植事情について指導して頂いた。更に投書や動画などを活用し、ドナー側の思いについても学びを深めた。授業と並行して日本臓器移植ネットワークのキッズサイトを活用した調べ学習に取り組み、脳死下臓器移植の知識を深めると共に、家族や友達へのインタビューも行い、自分の考えを形成した。児童は、問題を知り考えること、家族と話し合うこと、意思表示することの大切さ、健康や命の大切さなどについて深く考え、記述し、発言していた。【結果と考察】多教科や小児循環器医等が連携した「いのちの授業」は、児童の主体的な授業参加や深い思考、家族との意見交換などにつながった。今後の継続に向け、活動の工夫を図ると共に、小児循環器医や他教科他領域との連携も深めたい。

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 皿 第4会場 (男女共同参画センター 1F 多目的ホール)

委員会企画パネルディスカッション6 (III-CPD6)

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

座長：山澤 弘州 (北海道大学大学院医学研究院 小児科)

[III-CPD6-3] いのちの授業による教育と医療の連携

○種市 尋宙 (富山大学附属病院 高岡・地域小児保健医療学講座)

キーワード：教育、生命尊重、連携

教育と医療の連携の重要性に疑う余地はないと思うが、全国各地でだれでも容易に取り組めるような状況ではなく、各地域で苦労している話も聞く。演者自身は小児における脳死、臓器提供、グリーフケアなどに関わってきた経験をもとに、主に医療者を対象とした講演会を重ねてきた。そのような経緯の中で、ある学校教師から一通の手紙をもらい、一緒にいのちの授業をしませんか、との誘いが書かれていた。賛同し初めて参加したのが2017年であった。ほぼボランティアに近い状況で始まったが、生徒たちの反応や演者との意見交換は自己研鑽にもつながり、現在まで毎年1回継続して開催されている。回を重ねていく中でメディアの取材を受け、いのちの授業内容が新聞記事として紹介された。さらに、その年の新聞コンクールでは、その記事を読んで感じたことを記した子どもたちの作品がコンクールで受賞しており、二重に子どもたちの反応を知る機会を得た。まずは動くこと、積み重ねることで広がるいのちの議論の輪があることを実感した経験であった。

また、コロナ禍において、こどもたちと教育現場を守るべく、富山市教育委員会と連携する機会を得た。相互に激しい議論の中、ともに責任を背負って信頼関係を築いた。その経緯がある中で、コロナ禍後の子どもたちの健康課題に対して教育側が大きな懸念を持ち、学校現場からいのちの授業を開催してほしいと要望があった。授業全体を通して、子どもたちにいのちとは何かを問いかけ、予想を超える反応があった。今、子どもたちを取り巻く環境は生命を軽んじる風潮がある。そこに抗うことができる職種の一つが小児科医であろうと考えている。

教育と連携する契機、報酬、いのちの授業の内容と求められる結果など課題も多いが、今後の展望も合わせて教育とどのように連携していくと良いのか、ともに探っていきたい。

委員会企画パネルディスカッション

⌚ 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 皿 第4会場 (男女共同参画センター 1F 多目的ホール)

委員会企画パネルディスカッション6 (III-CPD6)

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子 (東京医科大学 細胞生理学分野)

座長：山澤 弘州 (北海道大学大学院医学研究院 小児科)

[III-CPD6-4] 「いのちの授業」-生老病死のウェルビーイング- ～教育現場から死生観の醸成を求めて～

○佐藤 毅 (東京学芸大学附属国際中等教育学校)

キーワード：生老病死、死生観、校医

【背景】2025年1月、厚生労働省は2024年の自殺者数を発表した。20,268人で前年より1,569人減少した。しかし、小中高生は527人と過去最多となった。少子化の中、子どもたちの自殺が増えている。この現実に向き合えばいいのだろうか。その中で、「いのちの授業」がより一層重視されている。教員を志した動機の一つにいじめや自殺が減って欲しいという思いがある。その思いは年々増している。

【目的】「いのちの授業」の充実に必要なことは、医療従事者が教育現場に入りやすくなることである。そして、医療現場、教育現場と分け隔てなく、連携・協働することで社会全体のいのちに対する想像力が膨らむことを望んでいる。正しい知識を身につけ、自らの健康やいのちを守る力を育むことは、未来の社会を持続可能なものにする鍵となるはずである。その能力とはヘルスリテラシーである。その能力を育むことで、未来の社会の成熟にもつながり、そのことがいのちを大切にする文化を築く第一歩だと考える。

【方法】2000年から『生老病死』をテーマに掲げ、生と死について考える機会を提供してきた。誰もが100%経験する、生まれて・老い・病み・死んでいく全てのことを若いうちから深く考えることは、豊かな人生を過ごすうえで必要不可欠なものと考えている。2013年からは全国の小・中・高・大学へ出前授業を展開している。現在、延べ54校、約14,000名にいのちの授業を行ってきた。

【結果・考察】これまでの実践から、いのちについて我が事として考えるだけでなく、他者への思いやりの精神がより育まれることを感じてきた。そして、その広がりが社会事として社会全体の死生観が醸成につながるはずである。

【結論】本講演では、今までの経験を基に、「いのちの授業」の発展について概説する。校医の重要性や養護教諭、道徳推進教師、保健体育科教諭との連携・協働についてお示しする。

委員会企画パネルディスカッション

📅 2025年7月12日(土) 10:10～11:40 🏢 第4会場（男女共同参画センター 1F 多目的ホール）

委員会企画パネルディスカッション6（III-CPD6）

「いのちの授業」活動報告

座長：内田 敬子（東京医科大学 細胞生理学分野）

座長：山澤 弘州（北海道大学大学院医学研究院 小児科）

[III-CPD6-5] 「いのちの授業」ー過去から現在までの取り組みと今後の展望ー

○土井 庄三郎¹, 田原 昌博², 中村 蓉子³, 山村 健一郎⁴, 齋藤 久美⁵, 佐々木 昭弘⁶, 佐藤 毅⁷, 種市 尋宙⁸, 山澤 弘州⁹, 内田 敬子¹⁰ (1.東京科学大学 医学部 小児科, 2.広島中央通りこどもクリニック, 3.土浦協同病院 小児科, 4.九州大学 医学部 小児科, 5.筑波大学附属小学校 養護教諭, 6.筑波大学附属小学校 校長, 7.東京学芸大学附属国際中等教育学校 保健体育科教諭, 8.富山大学 医学部 小児科, 9.北海道大学 医学部 小児科, 10.東京医科大学 医学部 細胞生理学分野)

キーワード：いのちの授業、学会と教育の連携、心臓移植

【過去】私たちが現在取り組んでいる「いのちの授業」は、2018年～2020年に開催した医学教育事業「PH Japan Project」に端を発している。児童・生徒の学校保健に携わる養護教諭を主な対象とし、小児心疾患に関する幅広い教育講演を計4回行った。その中で学校教諭による「いのちの授業」に初めて出会い、「社会に開かれた授業」を推奨する新しい学習指導要領を追い風に、私たちが自ら「いのちの授業」を実践した。小児循環器医師が児童・生徒に行う「いのちの授業」は、とても大きなインパクトを持つことを実感した。そして学会活動としての持続性を考え、学会内に「学会と教育の連携」委員会を発足させた。【現在】この1年間に、各委員は複数の「いのちの授業」を実践してきた。委員間の意見交換会では、複数ある選択肢の中で「心臓移植」のテーマは、正解の無い問いに対して個々人の納得解を導き、生きる価値を実感させる点で相応しいことを再認識した。東京都予防医学協会の支援もあり「いのちの授業」の啓蒙を目的に、学校保健セミナーで「学校教諭との連携"いのちの授業"～子どもたちの生きる力を育むために～」を配信し、「よぼう医学 2025 WINTER No27. 新年号」に原稿執筆した。そして私たちの念願であった「いのちの授業」ページを学会HPにアップした。【展望】学校教諭との交流や意見交換を更に進めることで、「いのちの授業」をbrush upしていきたい。「いのちの授業」の全国展開に向けて、押さえるべき点を明確にする必要がある。昨年度行った大学看護学部での「いのちの授業」は、全講義の中で最高の学生評価を獲得した。今年度は1看護学部と1医学部を新たに加え、心臓移植/肺移植後患者の体験談とともに、「いのちの授業」を計画している。また日本臓器移植ネットワークと協働し、文部科学省後援の「いのちの教育セミナー」で、全国に発信したいと考えている。